

児童発達支援自己評価表「事業所職員向け」

公表 令和2年7月1日

事業所名 さんぼみち

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は、改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	8		(はい) 広さ、児の特性などを踏まえて、各部屋の人数を決めている。 (どちらともいえない) 児が動き回ることもあり、スペースが狭く感じることがある。	遊びによって、部屋を移動するなど、工夫をしていく。
	② 職員の配置数は適切である	8	3		(はい) 各部屋児の人数に応じて、職員を配置している。	手厚く配置しておりますが、それでも目が行き届かない部分も有りますので、スタッフ間の連携を強化していきます。
	③ 生活空間は、本人に分かりやすく構造化された環境になっている。また、発達の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	3		(どちらともいえない) 部屋によってはロッカーの位置がわかりにくいことがある。	可動式のロッカーは配置を変え、動線の整頓を行っていく。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8	2	1	(いいえ) 勢いのある児や激しい児が部屋に多いと、緊張感が高くなり、動きにくい。	児の様子を見て、令和2年度の児や職員の配置を変えて、経過を見ていく。状況によっては年度途中での変更も考える。その旨を保護者にも了承を得ています。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	2		(どちらともいえない) 毎日勤務しているわけではないので、わからないことがある。	申し送り、振り返り用紙を用意し、どの職員にもわかりやすいようにする工夫をしていく。

児童発達支援自己評価表「事業所職員向け」

	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	1	(はい) 保護者からの評価実施後、どのような意向があったのか、説明があった。	意向を説明するとともに、さんぼみちとして、どのような改善をしていくのかを検討するようにした。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10	1		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	9	2		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11		(はい) ミーティングやカンファレンスなど、定期的に行っていて、研修の機会が多い。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	10	1		
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	2		
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家庭支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	10	1		

児童発達支援自己評価表「事業所職員向け」

⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9	2	(どちらともいえない) 支援計画に沿った支援をしているが、それがうまくできているのか不安になることがある。	振り返りの時、職員間でお互いの支援についても話し合えるような雰囲気づくりをしていきたい。	
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	3	1	(どちらともいえない) 相談できることもあれば、時間がなくてできない時もある。 (いいえ) パートでの勤務なので、常勤スタッフの提案したプログラムに従っている。	年度末、プログラムの見直しを行い、なぜそのプログラムにするのかを職員1チームで検討するようにした。
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	3	(どちらともいえない) 同じプログラムが続くこともある。	・変化に敏感な児に合わせて、ちょっとした変化をつけるように工夫をしている。 ・数人のスタッフで検討し、工夫できるようにしている。	
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	9	2			
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	1			
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11			(はい) 時間をとり、一人ひとり、またはグループ全体としての支援を丁寧に振り返っている。また、翌日の申し送りにつなげている。	
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	1	(はい) グループごと複数のスタッフで支援を検討し、翌日の支援でどのようにするのかを考えている。	グループごとでの振り返り後、常勤スタッフが記録に見落としがないのかを確認している。	
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	10	1			

児童発達支援自己評価表「事業所職員向け」

関係機関や保護者との連携	⑳	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	2			
	㉑	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	10	1		区役所の健康づくり課やルピロなど関係機関を連携している。	
	㉒	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	9	2		幼稚園や保育園の先生、保健師などと情報共有をし、支援について検討したりしている。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	8	2	1	主治医や医療機関で関わりのある職員と連絡を密にとれるようにしている。	
	㉔	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10		1	(はい) 保護者からの意向で、電話や学校訪問で連絡をとるようにしている。	
	㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	1	1	(はい) かけはしシートを利用している。	かけはしシートを利用して、情報共有に努めている。
	㉖	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10	1		(はい) 療育検討会や公開保育に参加している。	研修を受けたりしながら、連携をとっている。
	㉗	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流の機会がある	5	3	3		子どもたちが直接交流をもつ機会はない。

児童発達支援自己評価表「事業所職員向け」

	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7	2	2		
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	1		(はい)送迎時に話をしたり、連絡帳でのやりとりをしながら、共通の理解を持てるように努めている。	
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家庭支援プログラムの支援を行っている	10		1		
保護者への説明責任等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	1	1		
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	10		1		半年に1回の面談の中で、説明をして、同意を得ている。
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10		1	(はい)電話や親の会などで、悩みを相談する機会を作っている。	
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9	1	1	(いいえ)親の会はあるが、参加をしたことがないのでわからない。	親の会に参加しているスタッフが限られているため、今後どのスタッフも参加できるように検討したい。

	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10	1		
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10		1	(はい) 月1~2回、日程や行事などのおたよりを配布している。日々の様子がわかりやすいように、おたよりの内容を検討し、新しくした。
	③⑧	個人情報の取り扱いに十分注意している	11			定期的に個人情報の取り扱いについて、周知し、確認をしている。
	③⑨	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11			(はい) 口頭だけではわかりにくいので、メモに書いて渡すようにしている。文字だけだとわかりにくいので、絵や写真などでの説明をつける時もある。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	3	1	(どちらともいえない) 成人の事業を中心に地域のお祭に参加している。
非常時等の対応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	3		保護者への周知が不十分などところがあるため、今後わかりやすい説明ができるように検討する。
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	2	1	(いいえ) 室内では裸足や靴下で過ごすことが多いため、避難する時にどうしたらよいか不安になる。上靴の使用を検討している。
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	4		
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8		3	(どちらともいえない) アレルギーのある児に対応しているが、医師の指示書は不十分。アレルギーに対して配慮はしているが、医師の指示書については検討している。

児童発達支援自己評価表「事業所職員向け」

④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	2		ヒヤリハットを作成している。朝の申し送りにて、前日にあったことをお伝えしている。
④⑥	虐待を防止するため、職員を研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	4		年に1回研修の機会を設けている。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	4		身体拘束はしていない。